

Identity Serviceのマシン移動

ここでは、Identity Service を Machine1 から Machine2 に移動する方法を見ていきます。

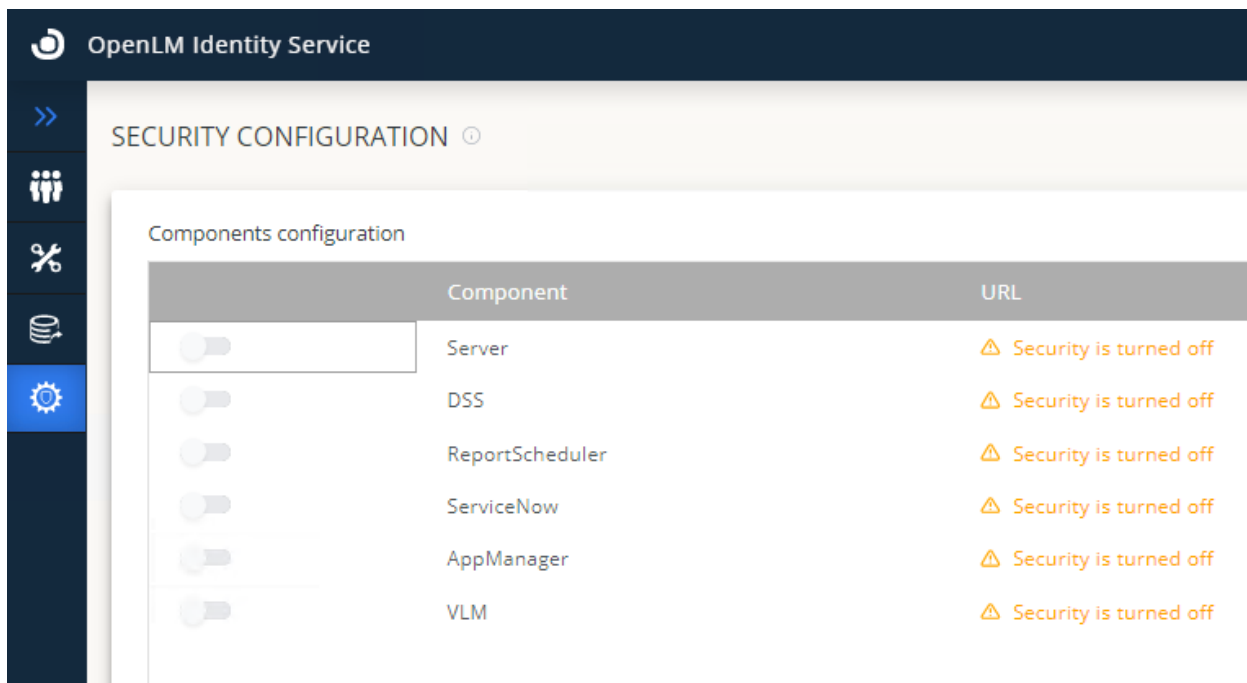
注意: このワークフローは Identity Service バージョン 23.7 以降から開始されるため、このドキュメントを使用して移行しようとする Identity Service のバージョンは少なくとも 23.7 である必要があります。

環境:

1. Identity Service が Machine1 (**M1**) にインストールされています
2. Identity Service を Machine2 (**M2**) に移行します
3. 他のコンポーネント (OpenLM Server、DSS など) が **M1** の Identity Service に接続しています。
4. **オプション:** Identity Service で SSL を有効化する場合を考慮

手順:

1. まず、**M1** 上の Identity Service でコンポーネントのセキュリティを全て無効にする必要があります。



注意: この作業中は全てのコンポーネントはセキュリティなしで動作します。そのため、許可されていないユーザーが EasyAdmin やその他にア

クセスできないようにしたい場合は、移行が完了するまで全てのコンポーネントのサービスを停止してください。

2. **M1**でIdentity Serviceのサービスを停止します。
3. Identity Serviceのデータベースをバックアップします。
データベースを移行しない場合は同じ接続文字列を使用します。
4. **M2**上でデータベースをリカバリします。
5. **M2**上でIdentity Serviceをそのデータベースの接続文字列でインストール後にIdentity Serviceのサービスを停止します。
6. **M2**上でCMDを開き「cd」コマンドを使用して、SecurityServiceフォルダーに移動します。

```
cd C:\Program Files\OpenLM\OpenLM Identity Service\SecurityService
```

7. コマンドを実行する:

```
OpenLM.SecurityService -url "http(s)://[M2のFQDN]:5000"
```

(データベースの3つのテーブルでURLが変更されます)

オプション: Identity ServiceでHTTPSを使用する場合は、最初に**M2**のIdentity ServiceでSSLの設定を行います。

<https://www.openlm.jp/v21-ssl/>

SSL設定後に上記コマンドを実行してください。

8. **M2**でIdentity Serviceのサービスを開始します。
9. **M2**でIdentity Serviceのセキュリティ設定に移ります。
10. **M1**でのコンポーネントに接続とセキュリティ設定するか**M2**に移行したコンポーネントで接続とセキュリティの設定を行います。